

☆反帝闘争を
プロレタリア日本革命へ！
☆プロレタリア世界革命の旗の下
共産主義者同盟に結集せよ！
共産主義者同盟

2月27日
週刊
第214号
編集発行人 鹿野 豊
一冊 40円
購読料 20部500円(年刊)

戦旗

戦旗社
東京千代田区三軒町2-1
7-6 東京江東区東横田4-20
03 03 2011 東京江東区東横田4-20
大塚支店 大塚市市東区高島
中通り3-7-16
東京江東区東横田4-20
東京江東区東横田4-20
東京江東区東横田4-20

3月5日 / 学術的討論会 入管法阻止総決起集会
(江東公会堂・午後5時半)

4・28安保-沖縄闘争に総力を結集し

七〇年代武装闘争の新地平を切り拓け

三・一朝鮮青年革命十周年
3・5入管法阻止総決起集会
日時 三月五日 午後五時半
場所 江東公会堂 総武線新大塚駅よりバス5分

3・5入管法阻止総決起集会に結集せよ

地区共闘強化で入管体制の打破を

三月五日午後五時半、江東公会堂で「三・一朝鮮青年革命十周年」を記念して「3・5入管法阻止総決起集会」が開催される。この集会は、入管法阻止を契機として、地区共闘を強化し、入管体制の打破を目指すものである。

入管法は、在日朝鮮人の労働力搾取を目的として制定された。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この集会では、入管法阻止の経緯と現状、地区共闘の重要性、そして今後の闘争戦略について話し合う予定である。また、各地の共闘事例も紹介される。この機会に、同志を結集し、入管法阻止の闘争に総力を結集しよう。

4・28闘争を七〇年代党一軍統一

戦線の武装闘争の出発点とせよ！

四月二十八日、安保闘争の七〇年代党一軍統一の戦線の出発点となる。この闘争は、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。



現地同盟赤へル先頭に測量阻止

19・20の闘いを契機に成田闘争決戦期へ

三月十九日、二十日の闘いを契機に、成田闘争決戦期へ突入する。この闘争は、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。



この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

この闘争を通じて、在日朝鮮人の政治的権利を回復し、日本社会の民主化を実現しよう。この闘争の出発点となるのは、在日朝鮮人の労働力搾取を目的とした入管法である。この法律は、在日朝鮮人を「労働者」としてではなく、「外国人労働者」として扱っており、彼らの労働条件を悪化させている。また、在日朝鮮人の政治的権利を制限している。この入管法を阻止することは、在日朝鮮人の解放と、日本社会の民主化のために不可欠である。

共産主義者同盟理論誌

共産主義

13号 残部僅少

争闘の先頭へ
入試阻止一成田一赤軍軍解体
●社学同明大支部●

世界革命戦争—内戦の七〇年代を切り拓く われわれの労働運動への組織—任務方針

全国青年労働者討論集会への基調報告

共産主義者同盟中央労対部

第一章

反戦青年委員会の形成と発展

反戦青年委員会のその前史

反戦青年委員会の形成は、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

反戦青年委員会の形成

反戦青年委員会の形成は、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

反戦青年委員会の発展

反戦青年委員会の発展は、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

権力闘争への質の獲得

権力闘争への質の獲得は、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

社会的勢力としての反戦の登場

社会的勢力としての反戦の登場は、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

第二章

世界革命戦争と反戦青年委員会

世界革命戦争と反戦青年委員会の関係は、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

4.28沖繩開戦と10.11月安保決戦

4.28沖繩開戦と10.11月安保決戦は、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

反戦青年委員会の現状と展望

反戦青年委員会の現状と展望は、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

① 全人の闘争

全人の闘争は、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

② 折し反戦青年委員会運動の展開のために

折し反戦青年委員会運動の展開のために、戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

恒常的武装闘争を推進せよ

恒常的武装闘争を推進せよ。戦時体制の強化と労働者の苦悶を背景として、労働運動の組織化の過程で進められた。戦前、労働者は単なる被支配者として扱われてきたが、戦時体制の導入により、労働者は国家の戦力として動員されるに至った。この状況下で、労働者は自らの権利を主張し、労働運動を組織化して闘争を遂行するに至った。反戦青年委員会は、この労働運動の発展を促すために形成された組織である。

革命党の飛躍と赤軍派解体に向けて

過渡期世界の革命党建設の現段階の党派 闘争における日和見主義の補完物赤軍派

△昨秋安決決戦で 開かれたら、革命党の飛躍は、赤軍派の解体と不可分のものとして、革命党の飛躍と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△前野共産党と 革命党の飛躍と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△日の大衆の目 赤軍派の本質 赤軍派の本質は、日和見主義の補完物としての役割を果たしている。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△日和見主義の補完物としての赤軍派 赤軍派の本質は、日和見主義の補完物としての役割を果たしている。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△反帝戦線と革命党の飛躍 革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△革命の軍隊と 革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△革命の軍隊を担う 革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△革命の軍隊を担う 革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△革命の軍隊を担う 革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△革命の軍隊を担う 革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△革命の軍隊を担う 革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△革命の軍隊を担う 革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

△革命の軍隊を担う 革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。革命党の飛躍は、赤軍派の解体と共に進めなければならない。

社学同の組織総括と飛躍の課題

(4)

革命の軍隊建設を可能ならしめる 党的団結の強化をもってプロ独へ!

共産主義者同盟中央学生組織委員会

4・28日等が中心に、革命の軍隊建設を可能ならしめる。党的団結の強化をもってプロ独へ!

革命の軍隊建設を可能ならしめる。党的団結の強化をもってプロ独へ!

革命の軍隊建設を可能ならしめる。党的団結の強化をもってプロ独へ!

革命の軍隊建設を可能ならしめる。党的団結の強化をもってプロ独へ!

革命の軍隊建設を可能ならしめる。党的団結の強化をもってプロ独へ!

革命の軍隊建設を可能ならしめる。党的団結の強化をもってプロ独へ!

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

名古屋市中デモに 反帝戦線二線分支持で

革命の軍隊・党の革命

— 10・11月闘争の運動・組織論的総括のために —

共産同パンフ

- 1 安決決戦で切り拓く階級闘争の質
- 2 安決決戦をめぐる階級情勢
- 3 安決決戦と党の革命
- 4 10・21闘争総括
- 5 十一月闘争と同盟の任務
- 6 当面する「軍事」の政治的質
- 7 七〇年代を担いける革命党
- 8 十一月闘争とわれわれの軍事戦略

〈おわりに〉

十一月闘争の総括にかえて

主内容

共産主義者同盟中央学生組織委員会

増刷出版 二月十七日発売 定価1,000円

労働運動の現段階とわれわれの任務

労働運動の転換は何か

(一) 労働運動の転換は何か

(二) 東大闘争の意義について

(三) 反帝共闘の階級性について

(四) 右派労働組合の階級性について

(五) 4・28の労働運動

(六) 共産党の労働運動政策批判

反帝共闘の発展

日本労働運動の総括をかえ

プロレタリア運動の基礎理論を展覧

共産主義者同盟パンフ

1150円 1150円

B5版 64頁

共産同パンフ

1150円 1150円

B5版 64頁